

なきごえ



1976

5

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私

小田 覚 造

近年になって自然保護とか、自然を大切に、言葉が多く聞かれている。身近での自然が遠のいて行くのが残念な事である。それだけ動植物に対し興味を持たれる方々が多くなって来たのは事実である。私も其の一人で、一倍動物類に対する愛着心は小学生の頃より強い。何しろ身近に、しかも家庭に生きものが居ないと気が治らない性分である。

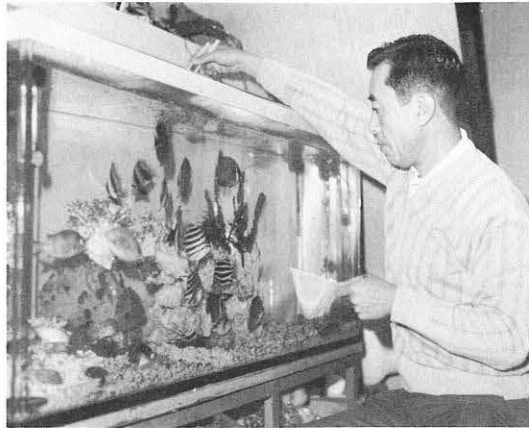
戦前、動物園の北へ300米位の松屋町筋に生れ育った関係で動物園は小学生の頃から格好のホームグラウンドでもあった。特に上町台地の続きでの天王寺公園は市街地の中でも緑多い自然に解け込める場所である。

夏は非常に楽しめたのは蜻蛉取り、ブリと称する糸で両端にオモリを付けた道具で毎夕日没迄採り歩いた。場所は動物園東入口、ひょうたん池（現動物園内）グラウンドであった。

昼間は蟬採り、顔中真黒に陽やけし乍ら熱中したものだ。現在でも、トンボ類は極めて数は減少したが、蟬類は茶臼山附近に割合に多いのは嬉しい。

当時より動物園への関心も強く日曜日の午前中に動物園へ数多く通った。家から動物達の好物を持出し、各動物に提供して、かへりにタンチョウヅルの餌のドジョウが逃げ出したのを失敬して帰った事もあった。特に北園から南園への通行地下道に水族館があり、これが私には非常に楽しみで、又関心が有った。今思い出すと私は、ハンザキ（サンショウウオ）、ニゴイ、等は特に種類を憶えていた。其の頃から魚も好きだったらしい。

最近、生きもの趣味の会例会の際、中川園長に水族館復活の希望を申上げたのも思い出が数多くあるからだろう。又、入場券を楽しみにして集めていた。綺麗な写真での、シマウマ、カンムリヅルは今でも記憶に残る。現在も動物園は私の故郷の一部であると思っている。



其の頃より昆虫類に対する興味を有し、公園、動物園は勿論、箕面、妙見山等を歩き廻り本格的な昆虫採集を始めた。

（中学一年生頃?の）或る秋、動物園の剥製室で標本同定会が開かれ集めた標本を持参し、係員の方から「展示しないか」と、言はれ其れが確か、銀賞かに入賞したのを記憶している。其の時、現中川園長は紺色の背広を召されて居られ、私等の御世話を願へたのを思い出す。

以来昆虫類に対する自信が付き、近年迄昆虫類を山野に追廻して来た。

余り殺生するばかりより愛好する方にもと考へ、アホウの鳥飼いに転向し、洋鳥を飼育し特にインコ類を好んで巣引させた。ナナクサインコ、サメクサインコ、を多数巣引に成功させて喜んで居た。処が長男が小児ゼンソクに罹り医者から鳥の羽毛が原因?ではないかの由、其れ以来中止のやむなきに到った。

只今現在では山野より一変し、大自然の海へ暇有る毎に南紀州太平洋岸各地に出掛けて海の魚を相手に釣を楽しみ、所謂、熱帯性海水魚たる魚達を採集して帰り飼育し、ミニ海底を作り、居ながらにして南海の珊瑚礁の海底を想像し乍ら観賞している昨今である。

（生きもの趣味の会会員）

なきごえ5月号もくじ

動物と私.....	2
バーバリープの赤ちゃん.....	3
動物園グラフ.....	4・5
アシカの誕生.....	6・7
天王寺のどうぶつたち(13).....	8・9
獣医室から⑨.....	10
動物園ニュース.....	11

表紙の写真説明

“エミュー”

このエミューは昭和11年4月に当園に入園したもので、今年の4月で飼育歴満40年を迎えた老鳥です。現在、長寿記録を更新中で、今後もっともっと長生きしてほしいものです。

（撮影：長瀬 健二郎）



“バーバリープの赤ちゃん”

4月7日に生まれたバーバリープの赤ちゃんは、虚弱児だったため人工哺育で育てています。「ココちゃん」という愛称をつけてもらって、今では元気一杯です。

（撮影：宮下 実）

動物園グラフ

“動物園に飛来する鳥たち”

5月10日からの愛鳥週間にちなみ、園内に飛来する鳥を特集してみました。園内の樹木もふえたせいか、最近、野鳥の種類、数もとみにふえてきています。

(撮影：宮下実・長瀬健二郎)



モズ



ムクドリ



ツグミ



シジュウカラ



ヒヨドリ



コウノチヨウ

(これは野鳥ではありませんが、ペットで飼われていたものが逃げだしたらしく、よく園内に来ています。)



キジバト



ハクセキレイ



シメ

3・4月の動物園日記

- 3/21. ホッキョクグマが回虫をわかせているので駆虫してやりました。
- 23. メンヨウの仔が1頭生まれました。コヨーテがオスを2頭出産しました。
- 25. ホッキョクグマ2頭を運動場で同居させました。
- 27. セイランが産卵をはじめました。
- 29. チンパンジーのサクラちゃんが風邪気味なので治

- 療をしています。
- 30. クロヒヨウのオスとハナヒヨウのメス、尾しました。オスのインドクジャクの寄贈がありました。
- 31. ホオジロカンムリヅル2羽、ニジキジ1羽それにハッカク1羽が入園しました。
- 4/1. 高校生以上の入園料金が200円になりました。コサンケイ、ミカドキジ、オナガキジの卵をチャボに抱かせました。
- 2. シュバシコウが3巣で抱卵しているのが確認され

- ました。
- ダマワラビーが交尾しました。
- バーバリーシープが3頭出産しましたが1頭がが虚弱なので研究室に引き取り、人工哺育で育てています。
- 8. イノシシが線虫をわかせているので駆虫してやりました。
- 11. キボウシインコの寄贈がありました。
- 13. キジの寄贈がありました。
- 15. フラミンゴの巣作りが始まりました。

- 産卵シーズンが始まり、この日までに産んでいた10種、33個の卵をふ卵器に入れました。
- 16. シュバシコウの卵4個のうち3個をアオサギに抱かせ、1個をふ卵器に入れました。
- 17. アメリカのロサンジェルス動物園から広報担当のデニス・牧野さんが来園しました。
- 18. ケガをして入院していたマンドリルのメスが獣医室から退院しました。
- 20. アナグマのオスが頭にケガをしたので治療しています。

アシカの誕生

はじめに

アシカの繁殖は年一回で、6月に交尾して345日の妊娠期間を経、翌年の6月に1頭の母親より1頭の子供が生まれます。

天王寺動物園では、49年と50年に計6頭のアシカの子が生まれたのでお知らせします。

経過

アシカの父親は45年3月30日、推定2才で入園した。また、母親は45年3月30日と同4月14日に各々入園する。母親達も入園時の推定年齢は2才であった。



49年5月15日、私が飼育を始めて以来最初のアシカの子を見ることが出来た。しかし、分娩した場所が岩場であったことと、早朝で私がまだ出勤していなかったためか、発見した時初めての仔は既に死亡していた。

しかしながら、同6月15日に待望の赤ちゃんが、早朝1頭生まれていた。そしてその喜びもさめぬうち、その日もう1頭生まれた。なにしろ初めてのこ



となので親の乳首が後足の所にあるのかと心配している内に、仔は親の腹に口を当て、チュッチュッと音をたてて乳を飲み始めた。しかし、親の努力もむなしく6月26日に1頭が死んでしまい、残りは1頭となった。

49年の出産はこうであったが、50年に入って初めて出産した親は49年にも分娩した個体で、子連れの出産であった。出産前は食欲が無くなり、他のアシカが水の中に入っているのにもかかわらず陸上に上って水に入らなくなった。そして、仔を追い払う様になり、まもなく2頭目の仔を生んだ。

表①

親年度	A	B	C
49年度	a 5月15日出産 同日死亡	b 6月15日出産 生育中	c 6月15日出産 6月26日死亡
50年度	d 6月9日出産 生育中	e 6月14日出産 生育中	f 6月22日出産 生育中

6月14日に2頭目が生まれ、その後の出産はないと思っていたが3頭目が少し遅れて6月22日に生まれた。

発育記録

① 体重について

表②

測定日	個体	b	d	e	f
S.50.6.10		21.0kg	—	—	—
6.19		21.0	—	—	—
7.17		24.0	11.0kg	9.5kg	10.0kg
8.8		25.5	11.5	10.0	11.0
9.4		27.0	17.5	13.0	14.0

体重は上の表のように4頭とも順調に増えている。

② 哺乳について

哺乳の仕方は乳頭が4個あるので、親が陸上において横になると、4個の乳頭の内2個を交互に吸う。出産後、親は2〜3日餌を食べずに仔につきっきりで哺乳する。哺育の下手な親は仔に初乳を飲ませるのが非常におそくなるので哺乳場所は平らな所の方が良い。理由は傾斜地であるとうまく乳頭が仔の飲みやすい位置にこないからである。その例として2番目に生んだ親は地面が土の傾斜地であったので分

娩より初哺乳まで28時間もかかっている。



哺乳中のアシカの子

6月9日生まれの仔の場合、一昨年生れの仔が餌付かずはまだ親の乳を飲んでいたので、うまく親から乳がもらえず他の2頭に比べてやせていたが、現在では3頭ともあまり変らない位生育している。

③ 49年生れの仔について

49年6月15日生まれのものは親が50年6月9日に出産したが、その時点ではまだ離乳していなかった。

このままプールにおいていたので親が面倒をみず、死んでしまうと思われたので、6月10日に親より別居させアシカが泳げる程度のプールを陸の一角に作り収容した。



6月10日 土の上でどじょう10匹食べる。

6月11日 プールの中で金魚10匹どじょう15匹食べる。

- 6月12日 金魚20匹、どじょう40匹、イワシ8匹。
- 6月14日 イワシ500g、金魚10匹、どじょう20匹。
- 6月13日 どじょう20匹、フナ4匹、イワシ10匹。
- 6月15日 イワシ500g、金魚10匹。
- 6月19日 アジ2kg、どじょう200g、金魚15匹。
- 6月20日 アジ1.5kg、どじょう300g、イワシ500g
- 6月25日 アジ4kg。

上述の様に初めは動くどじょうや金魚に興味を示し、収容4日目頃より、海に住むアシカらしく海水魚を食べはじめ、1週間もするとアシカ本来の餌であるアジを食べる様になった。このころから金魚、どじょうなどの淡水魚はあまり好まなくなってきた。

8月9日には、もう他のアシカと同様に食べる様になったので他の10頭と同居させた。



むすび

アシカではオス、メス共6才位で繁殖可能になるように思う。仔の餌付けについては、生後10ヶ月位より異物を口にくわえて遊ぶようになって、自然に餌付く仔もある。動物園では、アシカの餌は大きな死んだアジであり、野生状態の様に仔が興味を示す様な魚を与えることがむずかしい。そこで人工的に餌付けする必要がある。

アシカが少なくなって来ている今日、一昨年、昨年と2年連続で計4頭の子を順調に育成させることができた。このことはアシカの担当者として非常に誇りに思う。

(飼育課 東 政 宏)

天王寺のどうぶつたち (13)

コブハクチョウ

天王寺動物園を南門から入り、右の方に歩いて行くとホッキョクグマ舎、ヒグマ舎と並んでいて、そこからもう少し先に行くと島が3つ浮んでいる広い池に出ます。ここは「日本庭園」と呼ばれている所です。この池にはクロエリハクチョウ1羽、カルガモ20数羽、アヒルが11羽、ガチョウ1羽、それにコブハクチョウが6羽います。今月はこのコブハクチョウのお話です。



①クチバシの根元のコブのようなふくらみがコブハクチョウの特徴です。

ハクチョウの仲間には6種ありますが、この中でコブハクチョウが最も一般的なハクチョウではないでしょうか。

というのは、よく公園や遊園地などで見かけるハクチョウはほとんどがこのコブハクチョウなのです。冬、日本に渡ってくる



②大きく立派なおス

ョウやコハクチョウのように羽の色は純白ですが、体は少し大きく、クチバシの根元の所に黒い肉のふくらみがあるのが特徴です。このコブのようなふくらみのせいでコブハクチョウと呼ばれるのです。体はとても大きく全長 1.6m、翼をひろげると 2.3m もあり、体重も大きなオスでは20kgをこえる位です。原産地は北ヨーロッパと言われていますが、古くから家禽化され、ヨーロッパではこのようなコブハクチョウがたくさん増えているそうです。また、フランスではナポレオンがこの鳥を保護したそうで、半野生のものでも人を恐れず手からえさをもらったりもするそうです。

日本庭園にいる6羽のうち2羽がペアを作っていて、毎年産卵しています。産卵する場所は毎年同じ所で、池の一番奥の岸が少し突き出た所です。ここに屋根をヨシズでおおった小屋があり、3月頃になると小屋の中にある巣の修理をはじめます。はじめ

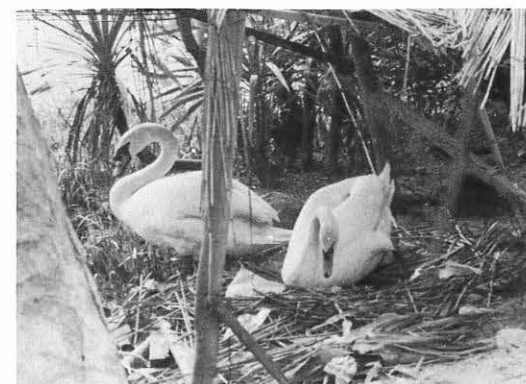


③着水するところ。足を水上スキーのように使っています。

て産卵した時の巣はそれほど大きくなかったのですが、毎年使うごとに修理し、巣材を足していったので今では直径2m位もある大きな巣になっています。巣材は主に飼育係の人がコブハクチョウのために近くに置いてやるヨシズが中心で、これを巣の中に運び込んで使っています。その他に枯葉や小枝、

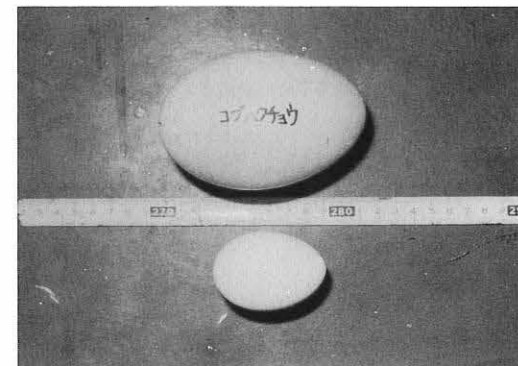
新聞紙、それにビニール袋から紙袋まで巣材に用いています。この間などフィルムを入れるプラスチックの容器まで入っていました。ひょっとするとこれは卵とまちがえて親が巣に持ち込んだのかも知れません。

卵は緑がかった灰色をしていてとても大きく、たて8cm、よこ12cm、重さは370~380gもあります。ニワトリの卵の6倍以上もあるこの大きな卵を大体一日おきに6~8個も産みます。卵は普通メスがあ



④産卵の前に、巣の修理をはじめたオスとメス。

たためるのですが、このペアはオスもメスも卵をあたためます。メスがあたためている間、オスは近くで巣を守っているのですが、オスがあたためている時、メスはまるで卵のことなど忘れたようにスイスイ泳いでばかりいます。ひょっとするとこのオスがとても強いので敵が来ても大丈夫と安心してきいているのかも知れません。本当にこのオスは気が強く、人が巣のそばまで近づくと羽を大きくふくらませ、シュー、シューという声をあげながら走ってきて、大きな翼を強く打ちつけます。たいていの人はいこれで驚いてしまって逃げてしまいます。しかし、悪い人もいて、このコブハクチョウの卵を人のいない夜のうちに盗んでしまうのです。また、盗まなくても親を追払ったりするため、せっかくあたためられて



⑤コブハクチョウはニワトリの卵の6倍以上もある大きな卵を産みます。

いた卵が冷えて、中のヒナが死んでしまい、ここ数年ヒナは1羽もかえりませんでした。今年も4月5日に1個産卵されたのですが、その翌日にはもう卵はありませんでした。そこで、これではと思い、その次の卵からはふ卵機に移すことにしました。今、ふ卵機には7個の卵が入っていますが、5月の末にはヒナたちがかえると思います。親の顔も知らない



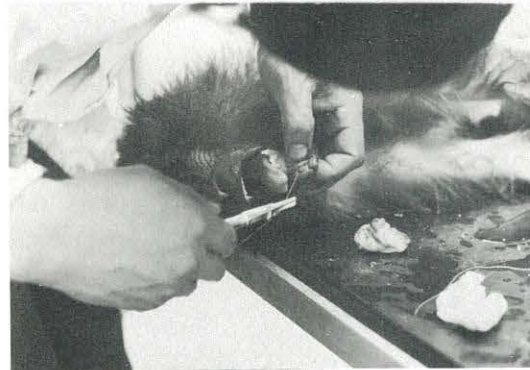
⑥ヒナが戻ってくるのを心待ちにしている両親。に入れられている卵を見ながら、その時のことを考えると、今からとても楽しみです。

(飼育課 長 瀬 健二郎)

獣医室から⑨

これじゃエサも食べられない!

3月5日、マンドリルのメスが下唇から血を出して、うずくまっているのが発見されました。よく見ますと、下唇は真ん中からスッパリとあごまで約3cmも切れており、かなりひどい傷です。咬まれたのか、あるいは何か鋭くとがったものでも引っかけたのかもしれません。唇が左右に分れたままではエサを食べるのも不自由そうですし、見た目もよくありません。そこで翌6日、



思いきって手術することにしました。麻酔銃で捕獲した後、麻酔状態のまま下唇からあごにかけて5針縫合し、研究室に1ヶ月入院させました。入院中は非常におとなしく、縫合

した糸を抜くこともなく優秀?な患者ぶりでした。おかげで傷のなおりも早く、4月中旬退院できました。

お産も楽じゃない

4月13日朝、ニホンザルのサル島で1頭のメスザルが苦しがり、うずくまっているのが発見されました。最初は単なる出産のために横たわっているのかと思っていたのですが、大分ひどい苦しがりようです。しかも胎児の方は片手だけしか出ておらず、どうやら異常分娩のようです。ほうっておいては母



仔共死亡してしまいますので、すぐ捕獲し、助産することにしました。しかし残念ながら胎児はすでに死亡しており、母ザルも大分衰弱していました。

胎児の頭がまだ母体内で引っかかっているらしく引っぱっても全然出てきません。とにかく母ザルだけでも救わねばなりませんので、胎児を母体内で切断して、ようやく引っぱり出すことができました。この母ザルは昨年も死産の経験があり、産道あるいは骨盤にでも異常があるのかもしれません。2日後には母ザルも元気を取りもどしたので、サル島に返しました。それにしても、お産というのは大変なことなのですね。

(飼育課 宮下 実)

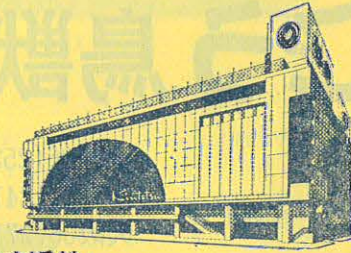
夢が広がるショッピング…… 近鉄がお届けします



上本町近鉄 TEL. (06) 779-1231

アベノ近鉄 TEL. (06) 624-1111

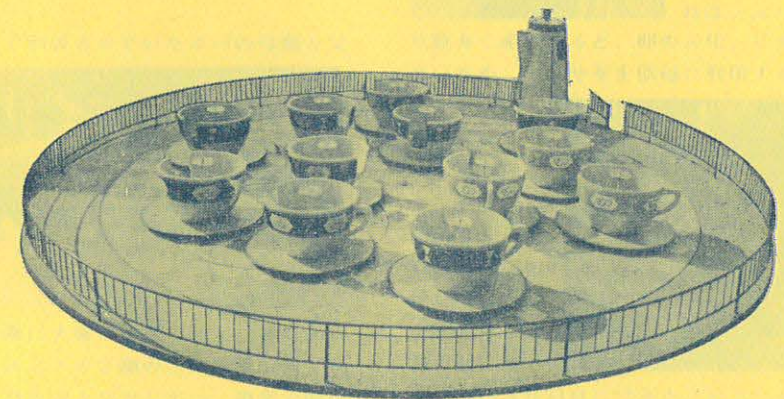
奈良近鉄 TEL. (0742) 33-1111



東京近鉄



遊園施設委託経営・製作・販売

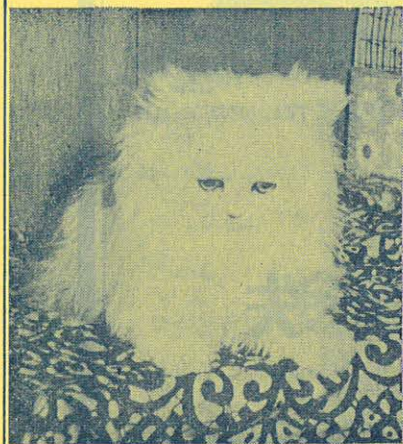


久竹 娛樂 株式会社

本社工場 大阪市西区南堀江通3-40
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

世界の猫、小鳥と愛玩動物専門店

はく製製造卸・直輸入動物取扱い店
各国、犬種・シャム猫・ペルシヤ猫



大阪市南区心斎橋 1丁目38

⊗ そごう 鳥獣部

そごう百貨店屋上 直通TEL

大阪06(252)5497
(241)9146
大阪06(271)2221
内線 2554

動物園ニュース

☆コヨーテ誕生

コヨーテが3月23日出産しました。仔はオス2頭で、母親がじょうずに育てています。このコヨーテは昨年10月2日に米国のサンディエゴ動物園より、当園の開園60周年記念に贈られたもので、入園早々のオメデタでした。4月20日の計測では共に1260gの体重があり、順調な成育ぶりです。



のです。お互いに遊び相手がなくさびしかったのか、広い放飼場でさかんにじゃれ廻っていました。



☆産卵シーズン始まる

春の訪れと共に鳥たちも産卵を始めています。まずキジ類ではミカドキジ、コサンケイ、セイラン、オナガキジ、キンケイ、キンイロキンケイ、シロキジ、マクジャクなどが産卵しており、チャボに抱かせたり、ふ卵器に入れたりしてあたためています。又、水鳥類ではカナダガンとコブハクチョウが産卵し、これもふ卵器に入れています。5月初め頃から、これらの卵が次々とふ化して、かわいいヒナが誕生することでしょう。

☆シュバシコウの卵をアオサギの巣へ



昨年7羽のヒナが誕生したシュバシコウは、現在6つの巣で産卵、抱卵しており、うまくいけば今年は10羽近くのヒナが誕生することでしょう。又、今年は初の試みとして、シュバシコウの卵をアオサギの巣へ移して、アオサギに卵を抱かせることも行っています。これはシュバシコウがあまり

数多く産卵すると、卵のふ化、ヒナの成育がよくないため、アオサギを仮母に利用することにしたものです。

☆新着動物

3月22日、カルガモが19羽入りました。翼の一部を切除して、早速南園の日本庭園の池に放しました。3月31日にはホホジロカンムリヅル2羽、ニジキジ1羽、ハッカク1羽が入園しました。



◎お知らせ

4月1日より入園料が今までの100円から200円に値上げになりました。中学生以下は現行どおり無料です。5月の休園日は才三月曜日の17日です。

☆バーバリーシープ出産相づつ

4月7日にバーバリーシープが3頭生まれ、1頭は虚弱なため人工哺育に切りかえ、残る2頭は元気なため親に付けていましたが、親につけていた2頭が惜しくも翌日死亡しました。しかし人工哺育中の1頭は、ヤギのミルクをもらいながら元気に育っています。続いて4月11日にも3頭誕生し、2頭は死産でしたが1頭は母親がうまく育てています。バーバリーシープは普通1頭か2頭しか仔を生まないのですが、3つ仔が2度も続いて生まれたのは非常に珍しいこととされます。

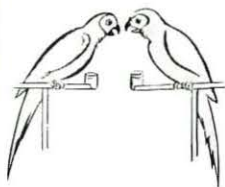


☆同居3題

3月28日、今まで別居させていたカバの母親と父親、娘の3頭を同居させました。母親は昨年3月に出産したため、ずっと別居させていたもので、1年以上の久しぶりの御対面に大喜びでした。又、3月30日にはピューマのオスとメス2頭の3頭を放飼場で同居させました。2月末頃より少しずつ、寝室で同居を試みており、けんかもせずにスムーズに同居に成功しました。4月2日にはホッキョクグマのオス同士を同居させました。今まで大きさにちがいがあすぎて、別々に収容していましたが、大きさも最近ほぼ似かよってきたので、思いきって同居させたも

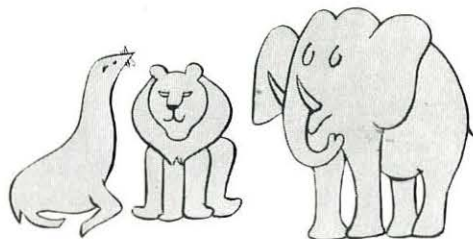


なきごえ 昭和51年5月15日発行 (毎月1回15日発行) 第12巻第5号(通巻129号)
 編集/大阪市天王寺動物園 千543 大阪市天王寺区玉水町2
 発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳 電話 大阪 (06)771-0201
 印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員 < 小谷 潔・林 邦彦・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三 >
 深井 和美・東 政宏・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・農本 武志